

東京鷹桜同窓会報



西根から見た冬の西山 写真提供/桜井禎一郎氏(昭和48年卒)

巻頭の言葉

中島コウ

(東京鷹桜同窓会副会長)



今年も終戦記念日がやって来ました。東京鷹桜同窓会の皆様には御健勝のことと存じます。私は昭和16年長井高等女学校入学、昭和20年3月卒業で、戦争に始まり敗戦で終る学生生活を過ごしました。3年生頃から戦時色が濃くなり昼休み時間は業間体操、冬は雪の校庭を裸足でマラソンの時間割でした。4年生の時、忠組は学校工場(東芝)、孝組は日飛(日本飛行機)、下級生の3年生は神奈川県大船へと動員されました。それでも一週間に一日だけ教科書に触れる日があり、そんな中でも自分なりのささやかな自由を見つけて青春を謳歌した記憶があります。

今はその頃の校舎もなくなりましたが、同級生に会えば当時の話で時間も忘れ、周囲かまわず長井弁まるだして夢中になってしまいます。当時をふり返り残念に思うことは、英語の時間は一年生の時だけで、二年生の時は希望者のみで終り、英語の先生は学校から姿を消してしまわれたことです。今だに横文字コンプレックスに悩まされています。

苦しかった事も年月が楽しい思い出に変えてくれ、今も葉山の四季がうかびます。

同窓会、心安まる日

高橋 忠三

(東京鷹桜同窓会副会長)



東京鷹桜同窓会は、今年75周年を迎えます。4分の3世紀の長きに渡るわけですが、諸先輩の御尽力のおかげでここまで続けてこられたのだと思います。本当にありがたく思います。

東京鷹桜同窓会と関わらせていただき始めたころを、今なつかしく思い出しますが、それは昭和45年のことです。私は、昭和26年の卒業ですが、サラリーマン生活で東京にばかりいたわけでもないこともあって、卒業してから15年程は実は鷹桜同窓会には出ていませんでした。もっばら26年卒業生の同級会『26会』のほうに出ていたのです。

「応援するからやれ」と先輩に励まされて

ところが、ある日、同級生の遠藤剛君から「忠三さん、鷹桜同窓会の事務局長をやってけんねが」といわれたのです。私にとってはまさに降ってわいたような話で驚きました。よく聞くと、その頃、事務局長をやっていたらっしゃったのが安部欣一現副会長だったのですが、安部先輩は昭和15年卒業で遠藤君を小学校で教えたことがあるらしいのです。安部先輩の奥様も長井高女卒業ということもあって、私たちの同級会『26会』の結束が固いということを目にされたらしいのですが、安部先輩もそれを聞かれて遠藤君たちが集まったときに「高橋なら」ということで私がないところで“欠席裁判”で決められたらしいのです。

しばらくして、遠藤君から「急だげんど、今日集まってけろ」という連絡を受けて、代々木の教弘会館に行きました。安部先輩は教育関係の仕事をされていてその教弘会館にいらっしゃったのですが、「応援しっからやってけろ」といわれました。私はその日ごっこ釣りの予定を中止して、そのままの妙なことうでできていたのですが、ひとこと「はい」と返事をしました。10人程集まった同級生も励ましてくれました。これが私と鷹桜同窓会との関わり合いの初めでした。

その頃はまた2年に1回しか総会をしていなかったのですが、いろいろなことがありました。私は事務局長を10年ちょっとやらせていただきました

たが、なかでも一番記憶に残っているのは、昭和55年の東京鷹桜同窓会創設60周年記念行事です。池袋にある東武パンケットホールでやったのですが約280名も集まっていたいただいて盛大でした。何人の方が「なつかしい再会」を喜んでくださっているのを見て、私の胸にはジーンとくるものがあって、「事務局長をやっていてよかった」とひとり感慨にふけたものでした。

清らかな野川、たおやかな朝日連峰

60周年は鷹桜同窓会にとっては転機となり、この頃から3千余名のほぼ全員に案内状を送るようになり、同窓会も毎年1回開くようになったのでした。総会の参加人数がどうも少なすぎて『26会』の同級生に急ぎよ20人も集まってもらったこともありました。置賜物産コーナーを設けて、玉コンニャク、ゆべし、雪割納豆、一口なすなどを置いたときは「なつかしい味」に本当に喜んでいただきました。また、同窓会の運営費はいつも不足がちでしたが、会報の下段に広告を掲載したり、長井紬展示即売会をやり、長井の紬協同組合から補助金をいただいたりしたこともあったのです。

また、総会とは別のイベントで「母校および故郷長井訪問」もやりました。本部では野川のそばのレインボーガーデンで合同の同窓会をしていたのです。清らかな野川の流れ、たおやかな朝日連峰の青山、数年ぶりの旧友の顔、気のおけない置賜弁の会話……に囲まれて、全てがなつかしい、心安まる一日を過ごさせていただきました。

東京鷹桜同窓会80周年を見すえて

私が事務局長をやらせていただいたのは30代後半から40代後半にかけてのことですが、何とか務め上げられたのは、その頃会長をしていらっしゃった故長沼孝三先生、諸先輩の励ましとアドバイス、同級生の応援をいただいたからです。5年後、東京鷹桜同窓会は80周年を迎えます。諸先輩の御意見を伺いつつも、安部事務局長と若い人たちが中心となって大きなエポックとなる80周年を盛り上げていただきたいと思います。私も、微力ではありますがまだまだ汗をかかせていただきます。

先生お元気ですか

母校長井高校に奉職して

八木孝一先生

(化学)



去る7月1日の鷹桜同窓会総会に卒業30年で招待された同窓生の「つどい学年」は、私が長井高校に赴任して初めて卒業させた生徒達でした。私は昭和38年から10年間奉職しましたが、生徒課長などをやらされたこともあって直接担任したクラスは2つだけでした。従ってクラス会への招待が少ないのを残念に思っていたのですが、今年卒業30年を迎えた生徒達がこれからは毎年クラス会を開いて招待してくれるというので今から楽しみにしています。私は在職中いろいろな高校を経験しましたが、長井高校は私の母校でもありますので特に印象が強く残っております。旧制中学時代の恩師や同窓の方々と一緒に勤めることが出来たのも大きなよろこびでありました。

私が長井高校に赴任した頃の母校の最大の課題は大学進学率を上げることでした。当時長井西置賜地区の中学生で大学進学を希望する者は米沢興譲館高校を選ぶのが多かったようですが、私と同じ年度に長井高校の校長として興譲館より赴任された奥山政雄先生は、英断をもって能力別学級編成を実施し進学率の向上をはかられました。生徒指導上の問題もありましたが、数年間の実施で進学校としての実績も安定したため、次の校長で母校の大先輩でもある芳賀秀次郎先生の時にこの制度は発展的に解消されました。以来長井高校は興譲館と並ぶ進学校として毎年立派な成績をあげておりよろこびにたえません。

私は教職を退いてから10年になりますが、母校の同窓会総会には欠かさず出席しております。後援会も新たに結成され、卒業30年の同窓生の「つどい学年」が招待されるようになってからは非常に盛会となりました。在京の方々も是非一度帰郷旁ら参加されるようおすすめします。

最後になりましたが東京鷹桜同窓会の一層の発展と、会員の皆様の益々のご健勝・ご活躍をお祈り申し上げます。

であい・ふれあい・たすけあい

安部新一先生

(体育)



昭和42年、教職に就いて10年目に母校の長井高校に教師として勤務することになりました。その年の8月28日から29日にかけて小国町を中心に記録的な集中豪雨があり、河川の氾濫による洪水、家屋の浸水、山崩れや土石流が重なって羽越大水害に発展しました。校舎やグラウンドも当然水浸しになりました。グラウンド東側の部室の前は私の腰まであり、地下からの気泡が炭酸水のように一面に噴出していたのを今でも覚えています。整備中の国道113号線や国鉄米坂線はいたるところで寸断され、小国の生徒は陸の孤島と化した郷里に帰れなくなりました。そこで2陣に分けて職員が徒歩で小国まで生徒を引率しましたが、その被害は想像を絶するものでありました。いま、すっかり整備された道路を通るたびに当時を思い出しています。

昭和46年には創立50周年を迎え、その記念事業として県下初の泳法指導のための水中観察窓を備えた置賜地区高校で只一つの学校プールが完成しました。以来、水泳の授業、県の研究大会、それに橋爪四郎氏による講習会など実績を重ねて、東北総体、全国高校総体や国体で活躍した選手を輩出しました。当時、私はその泳ぐ形や姿から「トド」とか「マナティ」とあだ名されたものでした。

長井高校に13年勤めた後、教育事務所にて7年、米沢商業高校にて3年、そして「べにばな国体」開催2年前に県教育庁体育保健課に移り3年、県体育館1年を経て山形県最初の赴任校、荒砥高校で定年を迎えようとしております。いま、教員生活38年間を振り返って数え切れないほど多くの方々に出会い、お付き合いをさせていただき、支えられてきたことに心から感謝を申しあげたい。

全く知らない所や会合に出席しても人と人をつないでいけば必ず自分と結びつくことを実感しております。「人は財産、人脈は宝」であります。これからも、なお新しい出会いと触れ合いを求めていきたいと思っております。

あの日

あの頃

夏が来れば思い出す

橋本 淳一

(昭和36年卒業)



今も早苗ヶ原のグラウンドの、だれも走らないアウトコースには夏草が生い茂り、みんなが走るインコースだけが、夏の日差しに乾いて白く光っているのだろうか。…

…こんなふうには書き出してみると、思い出が一気に大きな塊のようになって甦ってくる。私の長井南高校の3年間はあのグラウンドとともにあったのだから。

あの日

入学と同時に陸上競技部に入ったのは、当然の成り行きであった。すでに荒砥中学の時に、NHK放送陸上の400メートルの記録で、私は県と東北で1位、全国で16位であったから、先輩からの入部の誘いと同時に陸上競技部に入った。勉強とスポーツの両立は理想ではあったが、意識ははるかに走ることに傾いており、日常のほとんどすべてが走ることへの工夫に結び付いていた。

学校では一日中かかとを地面につけないで歩いたし、廊下は極力足音を立てずに走った。朝の汽車通学も、自宅から荒砥駅まで毎朝朴歯の下駄を鳴らして走った。

顧問は、当時ジャガというあだ名の高橋先生と、赴任して1年か2年の酒匂先生のお二人であった。酒匂先生は、山形大学の槍投げの選手で、まだ大学を出たてであった。特に先生は走るフォームを重視して、フォームを固めることを主張された。きれいなフォームを作り、そのうえで筋力を高めていく。私はその忠実な教え子であった。

2年の秋に初めて国体予選で優勝し、東京国体に出場したが、国立競技場を1周しただけで予選落ち。続いて3年の春に県大会で優勝し、盛岡の岩手県営競技場で行われた東北大会に出場。中学時代の記録では東北で1位であったが、今度は2位にくい込むのが精一杯。そして夏のインターハイへ。

あの震災の神戸が会場であった。細かなことを一切省くと、やはり神戸のグラウンドを1周しただけで予選落ち。引率の高橋先生を失望させた。

インターハイを終えて、私はもう陸上競技をや

めようと思った。これだけ努力してこれだけの成績。要するに才能がないのだ。神戸から帰るともう夏休みであった。受験勉強も本格的に始めなければ追いつかなくなる。おふくろが借りてくれたお寺の本堂で受験勉強をするつもりであったが、結局毎日昼寝ばかりしてすごした。そしてその夏は、一切練習をしないで夏休みが終わった。

あの頃

学校へ出てみると、秋の国体予選が間近に迫っていた。私はもう陸上競技をやめました、と両先生に宣言すると、バカヤロウ、お前が出ないでどうする、と一喝された。仕方なくまたぞろ練習を始めた。出場すれば私は優勝するだろうし、国体に出るとなると、10月半ばまで練習が続く。それではまともな大学に入るのは所詮無理、どこかの体育学部を受験するほかならろうと考えた。スポーツ記者にでもなれたらいいと思った。

国体予選の会場は、山形市営競技場であった。酒匂先生の引率で、我々は先生の母校山形大学の寮に泊めていただいた。が、試合の朝になって困ったことが起きた。朝ごはんがないのだ。大学はまだ夏休みの期間中であり、賄いができないのだ。酒匂先生が町に出て菓子パンと牛乳を買って来てくださった。私は泣きたいような気分で菓子パンと牛乳を飲み下した。ただでさえ緊張して、コンディション作りに神経を使うのに、菓子パンを食って走らなければならないとは。

私の400メートルは、決勝で敗れて2位に終わった。悔しくて涙があふれた。菓子パンのせいだと思った。菓子パンだけのエネルギーだから決勝で力尽きたのだと思った。しかし、ありようは練習不足で体力が続かなかっただけであったろう。

私はまた進路を変更する羽目になった。体育学部をやめて普通の学部にくら替えし、結局、早稲田の文学部に入ってそのまま卒業した。そうして今日があるのだが、戯れとは知りつつ私は時々ちもないことを考えてみることもある。あのとき国体予選に優勝して国体に行っていたら、その後の自分の人生はどうなっていたらうかと。

なつかしい人に会いたい



10月にお会いしましょう

高橋 誠 先生
(国語)

東京鷹桜同窓会の皆様、お褒りありませんか。私は、昨年3月末まで皆様の母校である長井高校にのべ21年の長期間に渡り、勤務させていただきました。その間、昭和50年から9年間と、昭和62年からの3年間は米沢興譲館、余目高校にも勤務いたしました。また、長井に3度目に赴任した際には、この東京鷹桜同窓会の会報においてペンを取らせていただいております。

さて、私も早苗ヶ原には在職中のさまざまな思い出がございます。私の目に映る長高生の皆様は、どちらかといえば控え目でおとなしい生徒さんでしたが、高校に入学してから卒業するまでの3年間の学力の伸び率は、山形県下No.1という例などがあらわしているように、非常に地力があって努力家でした。伸び率No.1については「N高方式の授業方式」があるとまでいわれています。

私も授業やクラブ活動(バスケットボール)を通して、皆様との一体感を十分に味わえたことを誇りにしています。街で、双鷹のボタンをつけた学生服や襟の大きい真白なセーラー服の長高生を見かけると、皆様のことも思い出したりいたします。体育館で円陣を組んで声を合わせた「ファイトーッ!」という響きが今も頭の中に甦ってきそうなこともあります。現在は、この山紫水明の地・長井を永住の地とすべく、ここに住居を構え、長井市立図書館長として勤務しております。

今回は、東京鷹桜同窓会にお招きいただきましてありがとうございます。長井高校卒業生の皆様と一同に会してお話をさせていただける機会に恵まれたことを大変にうれしく思っております。できるだけ多くの皆様にお会いできることを楽しみに伺いますので、よろしく願いいたします。



初めて同窓会に参加して

丸 茂 愛 子
(昭和48年卒業)

昨年初めて同窓会に出席させていただきました。随分前から案内状を頂戴してはいましたが、主婦の座にどっぷりとつかって十数年。この重い足を都心まで向かわせてくれるだけのきっかけも仲々見つからないまま、時は過ぎてしまいました。

でも昨年、毎年送付して下さる会報誌の中に、同級生の名前を見つけ、私の気持ちは踊りました。懐かしい……、会いたい……、話したい……。それまで、遠い存在だった同窓会が、急に身近なものに感じられ、昨年の参加となりました。

長井高校の伝統を築いてこられた大先輩から、当時(20数年前)のかわいかった後輩達とご一緒させていただき、方言混りの和やかな雰囲気の中、時の経つのも忘れる程、楽しいひとときを過ごさせていただきました。

ちょっぴり残念に思えたのは、私の同級生も2人だけしか見えていませんでしたが、同窓会にしては参加されている方が思っていた程多くなかったことです。

皆さんそれぞれにご都合もあり、参加されたくてもできない方もいらっしゃるかと思いますが、年に一度、いえ何年かに一度でも、東京という都会の中にできた、年に一度の、一日限りの“母校”に、足を運ばれてみてはいかがでしょうか。皆さんとてもあたたかく迎えて下さいます。そして何より、都会の中でなくしかけていた“自分”に出会えるかもしれません。

すでに、長井で過ごした年月よりも、こちらで過ごした生活の方が長くなってしまった私ですが、物言わぬ故郷の緑の山々が、妙にあたたかなものに感じられ、母親にも似た懐かしさを覚える今日この頃です。

千 鷹 桜 通 信

須藤軍二 (昭4年卒)

82歳ですが、どうか健康を保っています。老夫婦で近くの多摩川堤をハイキングしたりして過ごしています。

高橋清藏 (大14年卒)

長井中学校第1回卒業の同期生で、昨年10月永眠された長沼孝三君の位牌が長井市大町の摂取院位牌壇に安置されて居たので、去る8月お盆で墓参のため帰省の折、焼香して冥福を祈って参りましたが、寂しくなりました。総会の盛会と同窓生の皆様の健康を祈っております。

鈴木いと (10年卒)

9月末に昭和10年卒業の同期会が天童であり、出席することにしております。只今の心境です。相共に学びたりし六十年前 故里の友如何に老いしや

船越 信 (昭22年卒)

還暦を過ぎて、「故郷の山はありがたきかな」の想いを深めております。青春の一コマを置賜の同じ山河の中に過ごした諸兄姉の一層のご健斗を祈ってやみません。

鈴木時子 (昭23年卒)

会報を楽しみに拝見させて頂いております。今回は同年の竹田一熙さんの手記に感激しました。

今野幸男 (昭26年卒)

現在、千葉国際高校勤務。10月中は毎週日曜、受験される方のために学校説明会がセットされていて、残念ながら出席できません。

佐藤孝藏 (昭26年卒)

小生、声帯ポリープ手術後、日が少ないので今回は欠席します。各位のご健勝を祈ります。

西谷さだ (昭27年卒)

秩父路に秋が来て、柿の実が色づき始めました。観光客でにぎわっておりますので、今年は無理かなと想います。東京鷹桜同窓会のご盛会を心よりお祈り申し上げます。

中川昭二 (昭27年卒)

昨年暮、いままでの勤め(会計検査院)を辞し、財団法人雇用振興協会(神田駅前)におります。

佐原芳弘 (昭28年卒)

本年7月、与野郵便局を最後に現役(郵政職員)を退職。41年間の勤めを終了した感慨も、色々あって味合う間もなく、9月1日から第二の就職。閑職と思いきや、部下なしの「長」。だから何でもやらなければならないムダな忙しさ……。当日も先約ありという事由です。鷹桜同窓会の御盛会と皆様の御健勝を心からお祈りしています。

中川喜平 (昭28年卒)

昭和28年卒業40周年記念同期会を昨年(平成5年)4月、仙台市で120名の参加で開催しました。ご盛会を祈念申し上げます。

今井恒子 (昭28年卒)

会報に載った兄(竹田一熙、作曲・編曲家・指揮者・エレクトーン演奏家)の文を読み、母(竹田きち、大正11年卒業、昭和23~30年教員として在職)と3人、共に毎日長井高校に通っていた頃を懐かしく想い出しております。

目黒しげ (昭29年卒)

今春の帰郷時、長沼孝三彫塑館を観ました。ありし日の先生のお姿を思い出し、TASなどの彫塑も観て、念仏踊りの晩年の作品には、我が故里の偉大な文化の歴史の誇りと考えました。

芳賀文治 (昭29年卒)

私、今年3月31日をもって都公務員(武蔵野一中校長)を退職いたし、4月より東京造形大学に勤めることになりました。皆様方によりしくお伝えください。

斎藤聖子 (昭31年卒)

主人の第二の人生に伴って思いもかけない東京暮らしで、127名の浪人生と暮らしています(河合塾東京啓発寮)。収入半減、生きがい倍増(?)の日々を目を白黒させています。東京大学をめざす彼等、日本の指導者になるべき若き群像を見ながら、自己本位の人を大人がどうして育てるのかも思い、いま、日本の社会がいろいろなメンタルヘルスの必要性にせまられていることを感じます。胆玉母さんしています。

小関敏子 (昭32年卒)

同窓会報の「長沼先生をしのんで」を拝見させて頂き、長井北校時代の『少女の像』を思い出させて頂きました。沢山の夢を下さった恩師に心から感謝申し上げます。

坂 昭 (昭32年卒)

昨年11月、15年の大阪単身生活に区切りをつけて、関東に戻って来ました。現在は幕張新都心に居ります。10月16日は大変残念ですが、小生の大学の先輩主催のチャリティーコンサートが葛飾シンフォニーヒルズで行われる関係で、出席出来ません。来年度を楽しみにしております。

菊地多美子 (昭42年卒)

先頃、本当に久しぶり(何しろ26、27年振り)に、長井のタスで、18才で卒業以来の同窓会・同郷会で昔の仲間との対面を果たすことができました。私は、まるで浦島太郎の心境であらためて月日の重さ、長さを痛感せざるをえませんでした。山形の長井という本当にひなびた片田舎の町のひとつの学校の歴史が、遠く離れた東京の地で脈々と受け継がれている現実を思うと感慨深く、役員の皆様様の御苦勞を感謝いたしたいと思ひます。

鈴木 勉 (昭42年卒)

大学(星薬科大学)の教務部副部長になり、毎日会議が続き、出席することができません。申し訳ございません。

大塚なお子 (昭43年卒)

母の法事の為、長井に帰郷致しますので欠席致します。二年間もの入院生活をした母を亡くし、ボンヤリしていた時、皆様様の声を聞き、とてもなつかしく思い出されました。いつか出席できる日を楽しみにしております。

菅野眞実 (昭44年卒)

8月に44年卒業の同期会が長井で開催されました。20数年ぶりでお会いした方など、懐かしさでいっぱいでした。もう今回はそれで満足できましたので、東京の方は又の機会に致します。ごめんなさい。

鈴木洋子 (昭44年卒)

新幹線で数時間なのに仕事と子育てに追われ、長井に帰省することもままなりません。今回、東京鷹桜同窓会報を送って頂き、知っている人の名前に感激。同窓会に参加したいのですが、小さい子がいて当分の間参加できそうもありません。今回の会報を楽しみにしています。

振旗芳子 (昭44年卒)

今夏、久しぶりに田舎に帰り学校の前を通ってみました。いつのまにか木造校舎がなくなり、とても寂しい思いをしました。

安部小枝子 (昭46年卒)

同窓会報に事務局長に同級生の安部さんのお名前があり、また、同じクラブだった先輩のお言葉あり……と、なつかしさでいっぱいです。都合により今年は欠席させていただきますが、機会を把えて是非参加したく思っております。

高橋 朗 (昭48年卒)

彫刻制作活動の為飛び回って居り、残念ながら出席しません。またの機会を楽しみに、会の御盛況をお祈りし、近況報告と致します。

林 操子 (昭49年卒)

会報ありがとうございました。あいにく用事があり出席できませんが、御盛会をお祈りいたしております。7月に所用で長井に帰省した折、フラワー長井線の中で、高校生2、3人と話す機会がありました。20数年前にタイムスリップしたように、しばし時がたつのも忘れてしまいました。

橋本優子 (昭52年卒)

すっかりごぶさたしていますが、皆さんお元気ですか。私は3児(5才、3才、1才)の母となり、毎日大声張り上げています。

伊藤令子 (昭54年卒)

同窓会報ありがとうございました。三児の母として、小学校の役員、地域では班長として頑張っています。

菅原泰子 (昭55年卒)

5月に第二子を出産したばかりで、子育てに忙しく、今回は失礼させていただきます。主人の転勤で東京に参りましてから3年、また山形に戻ることとはなりますが、離れて子供を育てていますと、ことさら山形のよさがわかります。

* * *

今回も多くのお便りをいただきまして、大変ありがとうございました。

なつかしい旧友が、どのように過ごされているのかなどを少しでも知っていただき「鷹桜通信」が新たな交流や再会のためにお役に立てれば幸いです。いつも東京鷹桜同窓会に欠席の方からのお葉書が多いのですが、自分のなさっている仕事のPR、いいお店がある・便利な品物がある、こんな生活の知恵があるといった情報にも対応して、さらに興味を持って読んでいただけるページにしていきたいと思ひます。次回もお便りをたくさんいただけるようお願いいたします。

(通信は平成6年10月時のハガキより。敬称略)

◇事務局報告◇

(1) 活動報告

- 平成6年4月11日 事務局会議
 5月28日 役員会
 6月7日 学年幹事会(神楽坂エミール)。
 新しい事務局長に安部俊彦氏選出。
 7月8日 会報編集会議(小田急エース)
 8月9日 事務局会議。総会打ち合わせ
 9月15日 案内状送付(主婦と生活社)
 10月7日 役員、学年幹事、事務局、総会最終
 打ち合わせ。
 10月16日 総会(新宿モノリス)
 11月30日 反省会&慰労会
 平成7年2月7日 会長、本部、支部長会議
 3月7日 役員会
 3月20日 役員会、学年幹事会打ち合わせ
 5月11日 学年幹事会(神楽エミール)
 8月9日 事務局打ち合わせ
 8月10日 会報編集会議
 8月23日 事務局 庶務、会計打ち合わせ

○平成7年度総会担当学年代表

本担当 昭和49年卒業/遠藤剛、斎藤隆
 準担当 昭和28年卒業/木村繁、當麻泰、
 綿谷琴子、衣袋美砂子

(2) 平成6年度会計報告

(平成6年4月1日～平成7年3月31日)

〈収入〉

前年度繰越金	581,749
事務費(790口)	790,000
総会会費	782,000
役員及び幹事会会費	466,000
御祝金	144,000
本部助成金	10,000
雑収入	4,309
受取利息	3,300
計	2,781,358…①

〈支出〉

総会費	752,508
事務費	34,631
会議費(役員・幹事会等)	575,185
印刷代(会報を含む)	357,152
渉外費	70,000
本部協力金	50,000
通信費	421,659
計	2,261,135…②

① - ② = 520,223円(次期繰越金)

編集後記

昨夏も猛暑だったのですが、今年はそれを上回る「真夏日連続37日」という記録的な猛暑でした。みな様、いかがお過ごしでしょうか。

今年は1月17日の阪神大震災、3月20日の地下鉄サリン事件と悲惨なできごとが続きました。尊い多くの生命が奪われたのですが、オウム真理教幹部らによる「一連の事件」は断じて許せません。まさに20世紀の世紀末、先の見えない不況も以前として続いています。

そんなめまぐるしい状況の中で、心を安らかにすることができるのが同窓会です。東京鷹桜同窓会は今年75周年です。率直に申し上げてこの会報について、これまで「もう少し柔らかく」というよ

うな御批判もいただいて参りました。編集委員は「リニューアル」も検討してきましたが、今号は残念ながら実現できませんでした。同窓生のみな様の生き生きとした生活、豊かな人生を過ごす術などについての「今」の部分と、なつかしい長井高校時代を振り返る「過去」の部分とのバランスに気を配りながら刷新をはかっていきたいと考えています。

ますます同窓のみな様の心の結びつきの重要さを感じられるときでもあります。この会報は、そのためにいくらかでも「かけ橋」になることができれば、と思います。今後、みな様に執筆や写真提供のお願いをすることが多くなるかと思いますが、御協力よろしく願います。御意見もお寄せいただくよう願います。

東京鷹桜同窓会報 第14号

平成7年10月1日 発行

発行人：東京鷹桜同窓会

編集委員：遠藤 剛

志釜 拓

*東京鷹桜同窓会：高校の卒業生による東京首都圏在住者の同窓会組織

*事務局：〒107 東京都港区赤坂1-6-14 赤坂協和ビル204 土屋・味岡法律事務所内 (電話：03-5570-5834)